



シリーズ:DSO参加機関のご紹介 ④

DSO参加機関同士の理解を深めるため、各機関の紹介と最近の取り組みについてご紹介します。

*** 国立大学法人 宮崎大学 ***

【機関概要】

宮崎大学は、教育文化学部・医学部・工学部・農学部の4学部を基盤に、6つの大学院研究科及びフロンティア科学実験総合センター等の学内共同施設を擁する大学です。県内唯一の国立大学法人である本学は、「世界を視野に 地域から始めよう」をスローガンに掲げ、幅広い教育研究活動に取り組んでいます。

本学は木花(教育文化学部・工学部・農学部)及び清武(医学部・医学部附属病院)の2つのキャンパスをメインキャンパスとしています。平成23年5月現在、学部生は4,822名(内女子1,732名)、院生は745名(内女子194名)です。また、平成23年3月現在、教員・研究者数609名(内女性94名)です。

【男女共同参画/ダイバーシティへの取組】

本学では、平成20年度文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」の採択を受け、清武・木花両キャンパスに同事業の推進拠点となる「清花Athenaサポート室」を設置しました。同室は、女性研究者に対する支援はもとより、女性研究者支援の成果を十分に上げるためには全教職員にとって働きやすい環境の整備が不可欠であるという視点から、全教職員を対象とした意識啓発等にも積極的に取り組んできました。中でも、学内向けに発行を重ねてきた「Athenaかわらばん」や、育児・介護中の教職員に対する理解を深めることを目的としたシール・バッジなどは多くの教職員に利用されています。



〔左から子育て応援シール(黄=パパ用、ピンク=ママ用、緑=応援団用)、介護応援シール〕

また、学外では、九州・沖縄地区に立地する複数の大学とともに「九州・沖縄アイランド女性研究者支援ネットワーク(通称:Q-wea)」を立ち上げ、学習会開催や広報紙発行など実務者レベルの相互連携を生かした取り組みを進めています。



〔Q-wea's net用バナー〕

科学技術振興調整費の事業期間は平成23年3月で終了しましたが、この10月には「清花Athenaサポート室」の名称を「清花アテナ男女共同参画推進室」と改め、委員会の設置など全学的な男女共同参画推進体制の確立を行ったところであります。新体制の下では、女性研究者に対する支援も継続しながら、より多くの教職員の働きやすさ・多様性の発揮が実現できる環境づくりにさらに取り組んでいきたいと考えています。

DSOという新しいネットワークの場に加わせていただき、とても光栄です。参加機関の皆さまの取り組みを参考とさせていただきますながら、一歩ずつバージョンアップしていきたいと考えておりますので、何とぞよろしくお願いいたします。

【本所所在地】 木花キャンパス 宮崎県宮崎市学園木花台西1-1
清武キャンパス 宮崎県宮崎市清武町木原5200
【ウェブサイト】 <http://www.miyazaki-u.ac.jp/kiyohana/>

編集後記

産総研ダイバーシティ推進室では、10月15～16日に山口大学で行われた研究技術計画学会第26回年次学術大会に参加し、「理工系女性研究者が活躍できる職場を創る」「産総研のワークライフバランス:育児特別休暇と年次有給休暇の取得相関」と言う2題目について発表して来ました。本学会は、研究技術の企画や計画、科学技術政策の分析評価、人材問題など幅広い内容を扱っており、非常に興味深い学会でした。また山口名産のフグもしっかり食べてきました。

□ ご意見や掲載希望記事・企画がありましたら、遠慮なくDSO事務局までご連絡ください □

Athena かわらばん 1011/9/26 発行 第46号
発行 宮崎大学清花 Athena サポート室
(清花 Athena サポート室は動きやすい職場づくりを応援します) <http://www.miyazaki-u.ac.jp/kiyohana/>
E-mail: info@kiyohana.miyazaki-u.ac.jp

サポーターからのご声援は、日々励みになります。男性教職員向け小冊子「アイデア募集中心!!」

清花 Athena サポート室では、子育てや介護にかかわっている男性教職員や、これから子育てや介護・地域活動(PTAやボランティア等)等に関わりたくて考えている男性教職員に役立つ小冊子の作成を予定しています。

そこで、皆さんのご意見や視点を反映させたよりよいものを作成するために、小冊子に期待するイメージや、認識してほしい情報、アイデア等を募集します。

応募される方の性別や育児・介護等の経験の有無は問いませんので、ぜひ奮って応募ください!

募集締切は平成23年9月16日(金)です。詳しくはサポート室へお問い合わせください。

----- Athena 助成によるコース -----

医師用マタニティ白衣
～島根大学が新たに開発～

先月、島根大学医学部附属病院ワークライフバランス推進室が「ありそうでなかった」医師用コートタイプのマタニティ白衣を開発し、発表しました。

この白衣は「産婦中の女性医師でも快適に着用できるもの」という職員の方から生まれたもので、同室が同大学産学連携センターの協力を得て、地元白衣メーカーとの共同開発により開発されたのだとか。これまで男性用の白衣で代用することが多かったという女性医師ももちろん、産後回復や家庭内、実務上の研究者など幅広い職種での利用も見込めます。今後同大学では、学内のモニター調査を行い、実用化を目指すとともに、マタニティ白衣のレンタル制度もスタートする予定だそうです。

essay

このコーナーでは、宮崎大学の教職員や学生の皆さんに登場していただき、ご自身の経験や思いを語っていただく機会を設けています。今回は医学部附属病院の石山尚子さんが登場してくださいませ。

【お盆までのお知らせ】

医学部附属病院 産後臨床研修センター 研修医 永山 倫子 さん

「コロナで帰って、ベールを1着購入して家路、おとりに帰省の医療の実際を知る機会もありました。多岐にわたる取り組みも、勇ましくあがり、1年半、右も左も分からず学業不審で帰った研修医生活でしたが、指導医の先生方や仲間のおかげで、なんとか研修医2年目を過ごることができました。

宮崎大学での研修は、自分のスタイルに即して診療科および病院を自由に選択できました。2年の研修を終了した後、希望の診療科へ移ります。私もそれに即って県内各地の病院で研修してきました。

これまでの1年半を振り返ると、臨床医学を学ぶに、おとりに帰省の医療の実際を知る機会もありました。多岐にわたる取り組みも、勇ましくあがり、1年半、右も左も分からず学業不審で帰った研修医生活でしたが、指導医の先生方や仲間のおかげで、なんとか研修医2年目を過ごることができました。

宮崎大学での研修は、自分のスタイルに即して診療科および病院を自由に選択できました。2年の研修を終了した後、希望の診療科へ移ります。私もそれに即って県内各地の病院で研修してきました。

「お盆までのお知らせ」

詳しくは清花 Athena サポート室まで

〔Athenaかわらばん〕